

趣意書

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。弊協会の活動に関して平素から格別のご高配をいただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、弊協会は1966年に組織された日本実験動物技術者懇談会を前身として発足し、1975年に日本実験動物技術者協会と改称、2016年には設立50周年を迎えました。そして昨年には一般社団法人格を取得し、次の50年に向けて新たな歩みを始めたところです。弊協会は実験動物・動物実験に携わる技術者の情報発信の場として、また研究成果や創意工夫を発表し、自らが互いに切磋琢磨する場として、これからも活動を進めてまいります。

現在、私ども実験動物技術者が関わる分野は非常に多岐にわたっております。近年の「動物の愛護及び管理に関する法律」等関連法令の改正に加え、動物実験に向けられる厳しい社会的要請があることから、実験動物福祉の充実と動物実験の倫理的適正化に向けて、動物実験の現場の第一線で私たち実験動物技術者が果たすべき役割は日々大きくなっております。

そのような中で、例年実施しております全国総会を2019年度は弊協会関西支部が主管し、愛媛県松山市にて開催する運びとなりました。「第53回日本実験動物技術者協会総会 in 松山」と題して、2019年10月24日(木)～26日(土)の3日間、松山市総合コミュニティセンター(愛媛県松山市)にて開催する予定です。

今大会では、「伝えたい技術・伝えるための技術 ～世代を越え、^{みの}稔りゆく未来につなぐ～」をテーマに、実験動物科学・技術の一層の発展を展望し、また同時に自然科学・生命科学を根幹で担う私ども実験動物技術者の自己研鑽の場にできればと考えております。

本来、総会の運営は参加者の参加費などですべて運営されるべきところではありますが、会場準備にかかる費用のみならず、特別講演やシンポジウムなど講師の先生方に遠方からご来駕いただくこともあり、その全経費を参加費だけでまかなうことは困難で、皆様にご支援をお願いせざるを得ないのが現状です。この大会が参加者の皆様にご満足いただける有意義な会となりますよう、実行委員一同、鋭意努力いたしますので、何卒、関係各方面の皆様より格別のご支援を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

謹言

2018年10月吉日

第53回日本実験動物技術者協会総会 in 松山
大会長 矢田 範夫